

教育方針	豊かな自然、地域社会にはぐくまれながら、学科の特質と生徒の実態に即応した特色ある教育を実践する。人格の完成を目指し、調和の取れた人間性、高い知性、豊かな創造性の育成を図り、地域、社会の進展に貢献できる、主体性に富んだ広い視野を持った人間を育成する。	重点目標	新しい時代をたくましく生き抜く人材の育成 ～ 夢をつくる 心をつくる 未来をつくる ～ 1 学校生活の基本の徹底を図り、社会から信頼される生徒を育てます。 2 確かな学力の定着を図り、希望する進路の実現を目指します。 3 部活動の活性化を図り、心身ともに健康で逞しい人材を育てます。 4 地域との連携・交流を重視し、地域を愛し、地域に貢献できる人材を育てます。 5 人権意識の高揚を図り、豊かな人間性と思いやりの心を持った生徒を育てます。 6 生徒一人一人を大切にしたい個別指導や教育相談の充実を図ります。 7 読書や芸術に親しみ、豊かな感性や自己表現力を育てます。
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
P T A 活動	保護者への情報発信及び学校との連携の充実	有事におけるPTA行事の開催方法を研究する。 防災訓練の見直しを図る。	B	1学期のPTA理事会、総会はリモート会議及び紙面開催とした。1学期の防災退避訓練は行わなかった。2学期(火災想定)の訓練は事務室を通さずに第1発見者が通報するよう見直しをした。	感染症の拡散状況を注視してPTA行事を行う。毎回手順を変えて退避訓練を行う。
学習指導	家庭学習の充実	1日平均3時間以上の家庭学習時間確保と自主的な取組により、学力の向上を図る。 A 3.0時間以上 B 2.8時間以上 C 2.6時間以上 D 2.4時間以上 E 2.4時間未満	A	1年間を通した各学年の家庭学習時間の平均について、1年生3.2時間、2年生3.1時間、3年生3.2時間となり、全体的に達成することができた。	学年では目標達成できたが、クラスでは達成できていないクラスがある。今後も継続して、各学年の主任、正副担任、教科担当が協力して、家庭学習の意義について理解させ、時間の確保を促す。クラスで目標を立てたり、学習時間の少ない生徒と面談をしたりするなど、具体的な対策をとっていく。
	教科指導の充実	皆勤率学年平均60%を目指し、自己管理能力を育成するとともに、小テストや課題の精選等きめ細かな指導により、学力の向上を図る。 A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 45%以上 E 45%未満	B	1年間を通した各学年の皆勤率は、1年生44.6%、2年生66.7%、3年生67.7%となり、2・3年生は目標を達成できているが、1年生は達成できていない。	1年生の欠席については、疲れが出始める2学期により細やかな指導を行う。面談を多く取り入れ、生徒のサポートを充実させたい。2・3年生の皆勤率は非常に高かったため、次年度も継続させたい。日頃から、生徒一人一人の動向に注意し、教科指導、生活指導ともに、個々にふさわしい指導方法を工夫する。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	心のもった挨拶の励行、身だしなみの徹底100% 交通安全の推進により、校内外での事故・事件・違反ゼロを目指す。	B	挨拶の励行については、コロナ禍でもあり若干の躊躇が感じられる。身だしなみの徹底については90%後半でありよく守られていると感じる。校内外での事故・事件・違反については自損による軽微なものはあるが大きな事案に至っていない	心のもった挨拶の励行、身だしなみの徹底95%以上 交通安全の推進により、校内外での事故・事件・違反ゼロを目指す。
特別活動	自主的活動の充実	ボランティア活動、生徒会活動、学校行事に主体的に参加させる。	B	コロナ禍でボランティア活動、生徒会活動、学校行事が縮小され、自粛傾向にある中概ね主体的に参加し、できることを最大限やれたのではないかと感じる	生徒主体となる生徒会活動を充実させ、委員会活動を中心に、学校行事やボランティア活動に積極的に参加を呼びかけ実践する。
進路指導	進学指導の充実	進学目標達成の満足度100%を目指す。	A	進学目標達成の満足度は100%であった。	コロナの影響をプラスに変えて頑張り、成果を上げた。
		難関大及び国公立大10名以上の合格を目指す。 A 10名以上 B 7名以上 C 5名以上 D 3名以上 E 2名以下	A	大阪大学を初め、国公立大学に11名が合格した。目標を達成できた。	クラス担任が進路指導に前向きに、意欲的に頑張った。推薦入試や総合型選抜にも早くから取り組むように指導し、自身も調査書や推薦書を手を抜くことなく書いていたが、その取り組みが生徒に伝わり、大きな前向きな勢いを与えた。
	就職指導の充実	就職希望者全員の就職を実現させる。	A	全員就職が内定した。	コロナの影響で、求人がどのように変化していくか、注意深く
保健管理	保健管理の充実	毎日の健康観察や毎月の安全点検・報告により、健康、安全意識を高め、日本スポーツ振興センター申請件数減を目指す。	A	年度当初からのコロナ対策で、例年になく対応に追われた。毎日の検温や体調管理、環境の消毒、昼食時の呼びかけ等、保健委員を中心に活動し、意識の向上ができた。	コロナ禍がいつまで続くかは不明だが、衛生、健康に対する取り組みは、コロナ以外にも有効である。今後も意識が低下しないよう、県からの指導を元に、命を守る対応を続けていきたい。

※ 評価は5段階 (A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
業務改善	適切な勤務時間及び職場環境の整備	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。 健康相談等を定期的に実施し、教職員のメンタルヘルスケアの向上に努める。	C	勤務時間管理のメリハリにより、休憩時間は確保できた。管理職面接及び教育相談課の健康相談等により、教職員のメンタルヘルスの向上に少しづつではあるが努めることができた。	働き方改革による教職員の意識改革に努め、時間外労働時間の超過勤務を少しでも解消できるようにしていきたい。
読書指導	図書館指導の充実	「朝の読書の時間」の改善や呼びかけ等により、図書館の利用につなげる。 読書を通して読解力の向上を目指す。 平均貸出数 A 5.0冊以上 B 4.5冊以上 C 4.0冊以上 D 3.0冊以上 E 3.0冊未満	A	現在の平均貸出冊数は5.0冊である。(3/5日現在) 参考：昨年度4.6冊	「朝の読書」の時間における読書活動が、クラスによってまちまちである。コロナのために啓発の機会も失っており、担任の先生方の御助力を願いたい。
情報教育	ホームページの充実	CMS方式によるタイムリーな情報発信を行う。また、個人情報保護に努める。 HP更新回数 A 週7回以上 B 週5回以上 C 週3回以上 D 週3回未満 E 更新なし	B	教職員の方々の御助力もあり、タイムリーな情報発信はおおむねできている。第1回調査(11/1~12/5) HP更新回数は平均6.6回。第2回調査(2/1~3/14) 平均5.5回。	各学校行事や部活動、生徒会活動などについては、HPの割り当て当番になっていなくても、生徒の様子などを随時の発信いただけますようお願いいたします。
教相相談	教育相談の充実	生徒が抱える問題の早期発見に努め、不登校生徒ゼロを目指す。	C	悩みの調査や1年生へのアンケートで、生徒の思いを比較的多く知ることができた。SLAとも協力し、生徒の教育相談に努めた。	アンケート等を通して知り得た生徒の思いを、全体にも共有できれば、悩みを一人で抱えている生徒への対応にもなるのではないかと考える。「教育相談だより」の活用方法を工夫していきたい。

特別教育	特別支援教育の充実	生徒の実態を把握し、SLAや支援員との連携を図り、計画に基づいた支援を進めることにより、学校生活を円滑に送らせる。	B	担任、支援員、コーディネーターだけでなく、養護教諭、SLAとも共通理解し、生徒への対応に努めることができた。	授業担当者との連携も大切にし、授業での様子をもっと把握できるとよい。
同和・教育	人権意識の高揚	年間5回以上の研修や研究活動、交流学習等の人権委員会活動を活性化させ、人権意識を高めることにより、人権問題の解決を図る実践力を養う。 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回 E 1回以下	C	人権委員会の研修会は1学期に1回、2学期に1回、3学期に1回実施した。新型コロナウイルスの影響で、意見発表会は短縮開催で行ったが、人権・同和教育講演会や野村育成園との交流学習は中止にせざるをえなかった。	来年度の新型コロナウイルスの感染状況は予測できないが、感染防止の対策や対応が必要となる可能性が高い。人権教育関係の行事や高齢者との交流活動には配慮や対応を考え、できるだけ実施していきたい。
農業教育	農業後継者育成指導の充実	農業の担い手を育てる。 卒業生の担い手率 A 12.5%以上 B 10%以上 C 7.5%以上 D 5%以上 E 5%未満	A	今年度の3年生は地元外中学校出身者が多い集団で、進路は農業関連産業になる傾向が強い。授業では農家の出前授業や、高い頻度で農家に出向き、実際の現場を見る展開を取り入れたことが、目標に到達した要因であると考えた。	次年度は地元外が少ない集団であるが、授業では同じような取り組みを継続していきたい。
	農業クラブ活動の充実	農業クラブ県大会の各大会で優秀賞1つ以上、全国大会で優秀賞1つ以上を目指す。 入賞率 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 40%以上 E 40%未満	A	1月に唯一の県大会があり、当初の目標は到達できた。	今年度唯一実施された県大会もリモート開催であった。次年度以降もオンラインでの開催が予想されるので、問題点や改善点を精査して、次年度につなげていきたい。
寮務	基本的な生活習慣の確立と安全管理の徹底	点呼、巡視による生活指導や設備などの点検を行い、寮内での事故をゼロにする。基本的な生活習慣が身につく、掃除なども率先して行えるような寮生を目指す。	C	・寮内での事故が起きなかったことが何よりよかった。 ・点呼に遅れたり、掃除が隅々までできなかったりと寮生としてはまだまだである。	・コロナ禍では、毎日の手洗い・うがい・消毒などの徹底が重要である。気を緩めないように、今後も衛生管理・健康管理の徹底を行うようにしていきたい。 ・一部の生徒に掃除やゴミ出しなどを率先してできるものもできた。
施設管理	教育環境の整備充実	生徒の安全と学校運営の充実に向けて、修繕箇所への早期対応と予算要望への取り組みを図る。	B	衛生委員会における環境整備に加え、施設の修繕・教育環境の充実のための整備も進めている。	従来の修繕対応と教育環境の充実をを引き続き行い、新型コロナ感染症対策における衛生改善にも努めている。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。